**倉嶋会員　4/13　faｃebook　に投稿　（了解済）**

[桜の中で市民のことを]　2024年4月13日

昨日、私が所属している「**横濱プロバス倶楽部**」というグループが、新築移転した横浜市会の施設を見学しました。32階建ての市庁舎ビルの5階から8階までを使って本会議場、傍聴席、委員会室などがあります。

授乳室や親子傍聴室など女性に配慮した施設も作り、迎賓室としても使う休憩室からは港を一望に見渡せ、快適な環境。中で目についたのが通路に貼った一枚のモノクロ写真でした。

関東大震災で横浜はほとんどが崩壊、焼失しましたが、その中で開いた議会です。生き残った議員たちが崩れた瓦礫に腰掛けて車座になり、復興計画について熱のこもった討議を重ねた模様だそうです。

アゴラの広場を思い出させるこの一枚は、市民に直結した議会のありようを如実に伝えていました。だからか横濱では明治22年(1889年)の議会制定以来現在まで「市会」の呼称が続けられ、これは大阪、京都、神戸、名古屋でも同じだそうです。

横浜市の議員が今もそれだけの根性を持っているなら、どうですか、立派な施設での討議もいいけど、年に一回くらい『青空市会』を開いたらいかが。桜の季節に気持ちがいいですよ。